

第4回 武蔵野市立武蔵野公会堂の改修等に関する有識者会議 議事要旨

- ・日時：令和4年9月27日（火曜日） 午後6時30分～8時30分
- ・場所：武蔵野公会堂第1・2会議室
- ・出席委員：小林委員、吉本委員、吉川委員、青木委員、花柳委員、町田委員
和久津委員、毛利委員（名簿順）※吉本委員はオンライン参加
- ・事務局：総合政策部資産活用課長、市民部市民活動推進課長、総合政策部企画調整課都市機能再構築担当課長 他3名
- ・傍聴者：4名

1 開会

事務局から配布資料の確認が行われた。

2 報告事項

(1)武蔵野公会堂社会実験について（企画調整課都市機能再構築担当課長より説明）

【事務局】（資料「まちの将来像立案に向けて」、「社会実験事業者募集チラシ」に基づき説明）「NEXT吉祥寺2021」では、パークエリアの将来像について記載しており、将来像の検討のため、市職員のプロジェクトチームを結成し、昨年度、今年度と2か年で動いている。今年度は公会堂全体を利用した社会実験を実施予定であり（令和4年1月にも予定していたがコロナ禍により中止となった）、令和4年12月16日～18日に予定。9月9日～10月11日の期間で事業者を公募中。普段は認めていない飲食や物販等、一部ルールを緩和することで普段とは違う使い方もできるようにする。

(2)市民ワークショップについて

【事務局】（「市民ワークショップニュースレターNo.1」、資料1に基づき説明）前回有識者会議以降2回にわたりワークショップを開催した。第1回は施設見学から始まり、公会堂に関する感想・思い出を出し合った。また、第2回は必要となる機能をテーマに話し合った。議事に必要な部分は資料4に反映させている。

(3)市民アンケートの結果（速報）について

（資料2「武蔵野公会堂の改修等に関するアンケート調査用紙」に基づき説明）9月1日から9月19日までアンケートを実施。214名の回答で、分析中だが速報値として報告。回答者は年齢層の高い方が多く、使いにくさ、搬出入、情報発信、バリアフリー等への要望が見受けられる。

【座長】アンケート回答数は想定と比べてどうか。また、手ごたえはどうか。

【事務局】Web回答と用紙回答でおよそ半々の割合で、回答数は当初想定より多かった印象。用紙回答については、公会堂等の文化施設のラックから自ら手に取って回答いただいたもののほか、コミュニティ協議会に呼びかけて回答いただいたものも多い。公会堂

利用者からの回答がもう少し多ければよかったと感じる。

3 議事

(1) 公会堂の役割

【座長】続いて、事務局より資料の説明をお願いしたい。

【事務局】（資料3に基づき説明）これまでの内容の繰り返しになる部分もあるが、公会堂に求められている役割について、市と有識者会議における見解の確認としてまとめた資料である。これを踏まえて次の議論に進みたい。

(2) 必要とされる機能の検討

【座長】続いて、「必要とされる機能の検討」について、事務局より資料の説明をお願いしたい。

【事務局】（資料4に基づき説明）施設の現状と課題ごとに、有識者会議及びワークショップでの意見を整理し、それらに対する対応案や検討課題をまとめた。施設の機能に関する議論の参考にしていただきたい。また、参考資料4-1、4-2は、資料4の表を文章で並べたものである。

【座長】資料4「検討課題・対応案」の内容を中心に議論を進めたいが、その前にA委員からの意見がこの内容とリンクしていると思われるため、ご説明願いたい。

【A委員】参考として配られている資料は、第2回有識者会議後に、発言の意図について事務局から問い合わせがあり、ホール棟、会議室棟について、それぞれ整備の方針について意見をまとめたものである。ただ、新たな会議室棟について地下を設けることは想定していなかった。

【事務局】（吊物について補足説明）現状の公会堂は、天井反射板の片方が固定されていて吊物が吊れないため、バトンが下りるスペースが確保できず、改善する必要がある。壁沿いに収納できるタイプの天井反射板とすることで、舞台上は全て吊物が利用できる状態にできる。ただ、吊物の昇降による場面転換は難しいだろうが、300席規模のホールでは一般的である。

【座長】資料4の「舞台」の項目には、舞台そのものの具体的な使い勝手がもう少し書き込まれるべきだろう。

続いて、「楽屋」についてはどうか。ホールが使われていないときの使用可否が検討課題として指摘されていたが、それ以外に楽屋について意見はあるか。これまでの議論の中では「着替えられる」ことが出ていたと認識しているがどうか。

【B委員】鏡の位置が難しい。固定にすると位置が難しいため、動かせて、かつできるだけ大きい姿見がよいだろう。固定してしまうと使い勝手を変えられない。大きな姿見が例えば10台あると様々なジャンルに対応しやすいだろう。

【座長】現在の改修案Ⅱを見ると、地下の楽屋兼リハーサル室のような場所は、実際には多様な利用がされるということだろう。公演・発表の準備をするための機能が求められるため、それを踏まえて工夫を凝らさなければならない。Ⅰ案では、機械設備を屋

上に移せるのであれば、現在の機械室である地下にそういった空間が設けられるだろう。いずれにせよ、舞台の近くに色々なことのできる空間を用意しなければならないということを明記しなければならない。また、近くに倉庫があったほうがよいだろう。多機能な楽屋にする上での留意事項としては、「様々な着替えなどの準備に対応しなければならない」「それらに対応できることが用途を広げる」等だろう。

また、バリアフリー対応はどの程度可能か。基本的にはフルでバリアフリーにしたいということか。

【事務局】相違ない。

【座長】承知した。他に気付いた点はあるか。

【A委員】あくまでも参考の案ということだが、控室のようなもう少し小さい楽屋が必要ではないか。

【C委員】A委員の意見のとおり、一人でも待てるような控室は必要だろう。現状では市の事業では控室として会議室棟の和室を使うことが多いが、靴の脱ぎ履きが必要などの不便さがある。これから話に出るであろう和室については、着物を着るときに必要とか、靴を脱ぐ必要がある時に敷物で対応できるか等、議論が必要。また、楽屋兼会議室については、姿見や机等を収納するところがあったほうが便利か、広さが確保できるかなどが気になる。アンケートを見ても、説明会や講演会でのホール利用があるため、小さい部屋は必要な場合もあるだろうと感じた。

【B委員】日本舞踊の場合は、衣装、特に和物では、土足は不可。ただ実際は丸められる畳を敷いて着付けをしているため、必ず和室が必要というわけではない。会議室にはパーテーションがあるとよい。多少の音は仕方ないが、男女で利用する際に区切ることができる使いやすい。また、化粧するときはライトが必要。自身の団体では、メイクを依頼している人がライトを持参するが、どの団体もそうとは限らない。メイク室のような場所があると、演劇やバレエ利用でも便利だと考えられるため、ライトを常備してはどうか。ただ、楽屋として作りこむと会議室として使いにくいかもしれない。

【A委員】会議室棟に地下を設けるのであれば、地下は楽屋としての利用を優先させると良いのではないか。

【B委員】化粧は舞台人の命なのでライトは確保してほしい。また、着替えの設備は特に若年層で気にする人が一定数いる。

【座長】まとめると、必ずしも着替えるときに和室でないといけないというわけではないこと、舞台に出るときに化粧のための設備が必要ということだろう。

【B委員】普段利用する施設で、楽屋が和室の施設はほとんどない。

【座長】鏡に始まり、化粧ができるようなインフラが無いと難しく、そこを考えた方がよいということだろう。

【B委員】プロよりもアマチュアの方が良い環境でないと利用がしにくい。現在、良い環境が整っている施設が多く、比較して選べるため、整っている施設を使おうと思うだろう。

【座長】地下の部屋を多目的にできるかは分からないが、地下の部屋は主として楽屋、

差し障りのない範囲で多目的とし、多目的は地上の部屋に任せるということだろう。

【B委員】若い人にはその方が良いと考える。

【座長】事務局はこの点を工夫してまとめてほしい。控室は会議室に小さなものがあれば対応できる。エレベーターの付け方に検討が必要だが、講演者の控室は少し離れていたり多少動線が交差したりしていても問題ない。楽屋はフル装備での利用は地下楽屋、簡単な控室利用は一般動線と交差してもよいということだろう。

【B委員】団体で出ると、早めに準備をして、着替えて自分の出番まで待つということはある。いずれにせよ動線は分けたほうがよい。

【座長】エレベーターの制御でうまくできるかもしれない。なるべく動線は分けることがベターということ、舞台から遠くないといけない機能と遠くても良い機能があることを認識されたい。

続いて客席について。客席のバリアフリーについて、事務局からの必須事項はあるか。

【事務局】参考プランでは、車いす席を確保している。客席最後列と最前列に車いす席を設置可能としているが、席数については今後整理予定。

【座長】平土間利用の際に車いす席動線をどう取るかの検討が必要だろう。

続いて搬入について。市民ワークショップでも指摘があったようだが、現時点ではエレベーターもしくはリフター及びスロープか。

【事務局】エレベーターまたはリフターになるだろうが、1階が屋外の場合リフターは難しい。地下を外部化する可能性があれば可能だろう。リフターでは安全性の問題があるため、できるだけエレベーターにするという風潮はある。

【座長】改善方法については技術的に検討が必要ということで承知した。

続いて会議室棟について。

【副座長】改修の全体像に関わるが、そもそも「会議室棟」という名称でよいのか検討が必要。公会堂は開設当初は集会をする場所として整備され、機能していたので、「会議室」で良かったのだろうが、現在は文化施設となり、文化的な催しをするような施設に明確化していくなら、もっと特化した施設にしていく必要があるのではないか。名称は「会議室」でなく、例えば「音楽練習室」「演劇練習室」「スタジオ」などにして、芸術文化の活動を支援していったらどうか。もちろん、会議もできるという運用になるだろう。ダンスやコスプレの利用者が使っても良いと思えることが大切だろう。

【座長】名称は大切だ。現在武蔵野市では、公共施設の部屋を利用する際はどのように検索するのか。例として、多摩市での調査では、体育館の「和室」が最も使われていない部屋だった。その一因として、まず「スポーツ施設」で検索しないと体育館に到達せず、さらにその中に和室がある。和室を改修するのではなく、検索の方法を変えれば改修しなくてもよかったかもしれない。例えばスタジオなら、音を出しても大丈夫な部屋であることが分かるように示さないと、結局知っている人しか使わないということになってしまう。

【事務局】従前は施設名・部屋名からの検索だったが、今年の4月から目的で検索できるよう変更された。ただ、目的の項目数が多くて分かりにくいという意見が出ている。

【座 長】「音が出せます」等、性能を限定してはどうか。目的の分類が細かすぎるのかもしれない。会議室の機能としては、会議はもちろんできるが、ホールに付帯する施設として相応しいような、「音が出せる」や「発信できる」というような機能を持たせたい。もちろん椅子も並べられるが、特徴的な機能を持たせた方が良いでしょう。

【事務局】費用対効果も考えると、全ての部屋に全ての機能を揃えるのではなく、グラデーションを付けていくことになるだろう。名称については重要で、「会議室」ではなく、例えば武蔵野プレイスのように、「スペースA」「スペースB」のような名称の付け方も考えられるだろう。今後整理していきたい。

【座 長】面積はどう考えるべきか。

【事務局】周辺施設との役割分担を考えていく必要がある。前回の会議で、近隣の施設の状況を紹介した。民間の貸会議室では周辺は小規模なものが多い。吉祥寺エリアの公共施設では、商工会館にゼロワンホールという約180㎡、90人規模の会議室がある。またコミュニティセンターが数か所あるが、50～60㎡前後の部屋が多く、約160㎡ある本日の会場の1/3程度である。民間や公共施設の会議室が小規模なものが多いことを踏まえると、大きめの部屋のニーズが高いのではないかと考えている。ゼロワンホールとの役割分担もあるため、商工会館には無い機能を持たせて同規模の広さのものは考えられる。

【座 長】音の出せる大きな部屋が一つは欲しいということだろうか。

【事務局】現在は地下に想定している部屋以外で、防音機能を備えた大きい部屋のニーズはまだ掴みかねている。

【座 長】大きめの部屋について委員の意見はどうか。本日の会場だとどの程度だろうか。

【副座長】コーラスの練習は可能だろう。

【A委員】公会堂近隣だと、南町コミュニティセンターの地下の多目的ホールが大きく、約200㎡で100人ほど利用が可能である。30人くらいの利用では場所が無く、吉祥寺美術館音楽室しかないため競争が激しい。例えば90㎡程度の防音室があれば、ホールと連動してない時はスタジオとして利用できるというのが良い。1～2人での利用ならば貸スタジオでよいのではないか。

【B委員】天井の高さはどのような見込か。

【事務局】今後の調整だが、遮音になると天井が低くなる。

【B委員】天井が高いと良い。演奏人を呼ぶ会では30人くらい入らなければならず、小道具で長い棒を振り上げることもある。また、机と椅子が収納できる倉庫があると、ダンス等を目的とする人が利用しやすい。

【座 長】Ⅰ案では難しいが、Ⅱ案の場合は、天井高さは考慮されたい。天井の高い部屋を1部屋づくり、残りは低い部屋、というのも手だろう。ホールが平土間になった場合は、ホールそのものをスタジオとして練習利用をすることも可能。料金は高くなるだろうが、もっと大きい会場でやるための練習場所とすることもできる。

【B委員】ホールで本番時にもリハーサル室だけ借りて使えるようになると嬉しい。

【A委員】地下1階はホールの楽屋中心にしてはどうか、と発言したが、例えば楽屋エ

リアの真ん中にシャッターのようなものがあることができれば、一部は別団体が使っても良いということにできるのではないかと。ホールの付帯設備だけとってしまったら、ホールを使っている時には使えなくなってしまう。予約システムのつくり方など、運用でも工夫されたい。

【副座長】地下1階だけでなく全ての部屋を防音にしてはどうか。費用の問題は別として、全てスタジオとして防音にした方がよい。会議室として使ってはいけないということではなく、舞台芸術系のための利用を主とするということ。また、地下部分は確かに楽屋機能をしっかり持たせれば使いやすいただろうが、ホールを使う人でなくても使えるようにしておけば利用は増えるだろう。

【座長】まずは今の話をまとめると、できれば講演の控室として使えるような防音も無いような小さな控室を設けること、大きくてしっかりと防音の取れている部屋を設けること、また、その部屋は天井が高いとよいということだろう。ワークショップなどで出てきている意見も近いのではないかと。

次に和室の必要性について。今までの議論では、必ずしもなくてもよいという話だろうが、どうだろうか。

【C委員】今の和室は本来茶室として作られている。現在は茶室としての利用はほとんどないということだが、茶室としてどれくらいニーズがあるか、また、和室自体無くてもよいか、確認が必要だろう。

【D委員】これまでの説明や委員の説明を聞いて、いくつか発言したい。資料4で説明された「必要な機能」について、改修でできることには限界がある。必須設備や機能、可能であればやりたいことなど優先順位を今後整理してはどうか。

次に、図面の参考プランが出ているが、改修の基本的な方向としては有力な案の一つと感じた。ただ、この会議の報告書にどこまで盛り込むのか。図面まで示すのか、必要な機能の提言までなのか。今後の改修設計をどう進めるかも含めて、この会議に求められている到達点の確認が必要だろう。図面を詰めようとするときりが無いので、機能をまとめることとして、図面は設計時に提案してもらおうようにしてはいかかがか。

最後に、参考プランについての質問を3点。まず、他の機能との兼ね合いだろうが、搬入用エレベーターは可能な限り大きくしてはどうか。次に、駐車場に車が駐車中の場合、搬入トラックがつけられないのではないかと。最後に、エントランスと元々のエントランス動線はどう考えているのか。

【座長】今の意見について、まず、有識者会議のゴールについて事務局ではどう考えているのか。

【事務局】有識者会議の中では、前回共通認識となったとおり、改修を前提とするとできる範囲は限られてくる。改善項目について優先順位をつけて、機能や仕様の整理をしたい。市で来年度、基本設計、実施設計と進むにあたって、設計者選定について本案件は公開型プロポーザルによる選定が良いのではないかと考えている。今年度策定する計画では具体的な平面図までは示さず、動線計画やブロックプランなど、必要な事項を整理したい。一方で、費用対効果を探るために概算費用を出さなければならないため、そ

の元となる参考図はまとめていきたい。

【座長】優先順位をつけて、基本的には設計の条件を議論し、それを基にプロポーザルとなること、費用の大枠を押さえる必要があるということで承知した。プランについての質問についてはどうか。

【事務局】エレベーターについては、詳細は今後検討する。確かにできるだけ大きなものが必要だろう。トラックについても、今後調整が必要と考えている。エントランスについては、参考図面上2か所となっているが、新たにメインエントランスを南側に設け、既存のエントランス部分は既存の躯体を利用するという意図であり、設計の自由度のあるところである。また、駐車場については、法的に必要な台数を整理したうえで、搬入用トラックの展開スペースについても、今後精査する。

【D委員】説明のとおり、設計についてはプロポーザルが現実的だろう。委員会でのまとめ方もイメージしやすくなった。

【座長】続いて、和室の話に戻るが、和室は必須ではなく、優先順位は高くないということではいか。

【B委員】舞台を使う立場としてならば和室は必須ではないが、現在茶道等で使用している方々はどうか。

【事務局】現状のニーズは確認するが、他の施設との兼ね合いと現状の利用状況による。茶道専用の松露庵のほか、市民文化会館の茶室があり、日頃の茶道の活動は各コミュニティセンターでも行われている。また、公会堂和室の茶道利用は非常に少ないことも踏まえて、今後検討が必要。

【A委員】南町コミュニティセンターには茶室があるが、利用は月に4～5件で、週に2回は無いという状況である。

【座長】公会堂の和室を残すというよりも、市全体として、きちんとした茶室を少数確保するという観点が重要ではないか。検討の結果、きちんとした茶室が公会堂にあるべきということであれば必要だろう。

【副座長】文化施設の在り方検討委員会でも、松露庵が十分に使われていないということだった。松露庵をもっと使ってもらえるよう誘導するような仕掛けはソフト面でできる。国分寺市も重要文化財級の施設があるが、習い事として自宅で教えるだけでなく、施設を利用してもらえるよう補助金を出している。今ある良いものをもっと使ってもらえる仕組みは重要だ。

【B委員】なくす場合には、茶道の活動をしている方々への説明をしっかりとすべきだろう。

【座長】和室については、今の議論を事務局で整理されたい。

続いてトイレについては、今の基準に従って整備するという事だろう。

続いて共用スペースについて。ロビー機能は脆弱ということである。2つのエントランスを残すのであれば使い分けが必要であり、逆にしっかり分けることでメリットもあるだろう。情報については問題無いだろう。防災倉庫は市として必要ということだろう。最後に「緑化」について、敷地内の緑化と条例等についての事務局より説明願いたい。

【事務局】建築当初は緑化等に関する条例が無かったため緑化されていないが、増改築で現行法が適用される場合、緑化が必要となる。搬入や駐車スペースを確保するには地上だけで確保することは難しく、市民ワークショップでも意見が出ていた屋上緑化も想定できる。

【E委員】緑化面積の問題であれば、壁面緑化での対応も可能である。

【座長】壁面緑化の中には、基準を満たすためだけに設けているものもあり、必ずしも賛同しないが、公会堂は南西に敷地が開いており、壁面緑化はしやすい環境であるため、壁面緑化を考えると設計における自由度は高い。増改築の場合、緑化しなければならないことが設計の与条件になるということがポイントである。また、全体として、市民ワークショップも踏まえて、人の集まりやすい場所が条件として求められてきている状況だろう。今の施設が市民にとって少し入りにくいことを改善しなければいけない。その他、ワークショップからの意見については事務局で整理し、次回ワークショップも踏まえて次回有識者会議で示されたい。

【E委員】ロビーについて、ホワイエとロビーは分けるのがベストだが、この規模のホールで分けるのがよいかは議論してほしい。

【座長】参考案では分け切っていないが、この規模ではやむを得ないだろう。

【B委員】看板について、現在紙を柱に紙面を貼付している状況。何かしらあるとよい。

【座長】「情報」の内容だが、現状では古い掲示板があるだけで公会堂の中で何が行われているのかが分からない状況。「情報」の部分に記載してほしい。

【事務局】一点、次回有識者会議にて、平土間を前提とするか否かをご議論いただきたい。座席は幅も狭く通路幅等が法的に合っていないため何かしらの改修が必要。固定席と移動式観覧席では費用面では大きくは変わらないが、平土間利用も可能となればホールの利用の自由度は高まる。今後作成する仕様書で「平土間でも可」とするか、「平土間を前提」とすべきか、動線にも関わるため、次回議題としてご議論いただきたい。

【副座長】ホール棟の屋根の維持は前提なのか。施設の形自体にはこだわりが無いと思っていたが、残すことが条件になるのか。

【事務局】ホール棟は既存の躯体を活かすということで事務局としては整理をしている。

【座長】今の2点については次回有識者会議でも議論したい。

4 事務連絡

【座長】最後に事務局から事務連絡をお願いしたい。

【事務局】（資料5に基づいて説明）10月10日に第3回市民ワークショップを武蔵野プレイスフォーラムで実施する。市民ワークショップはこれが最終回となる。また、次回の第5回有識者会議は10月21日に公会堂で開催予定。

5 閉会

【座長】これにて第4回武蔵野市立武蔵野公会堂の改修等に関する有識者会議を閉会する。